

年 組 名 前

2021年5月21日付

こんな「笑い」も…



にこにこ

うれしそうに笑みを浮かべるさま

にんまり

思い通りになり満足げに笑みを浮かべる様子



がはは

大きな口をあげて、高らかに笑う声



他にも「にたにた」「にやにや」「げらげら」「けけけ」など

※「日本語オノマトベのえほん」をもとに作成

オノマトペ どんどん 使おう

あなたの歩き方は「すたすた」？ 「てくてく」？ それとも「のっしのっし」？ さまざまな動きや状態、音を言葉で表現する「オノマトペ」。日本では、子どもから大人まで誰もが日常的に使っている。絵本にも多く用いられるオノマトペは、子育てにも生かせそう。豊かな言葉の世界をのぞいた。（長田真由美）

声掛けぐつと豊かに

「外から帰ったら、手をゴシゴシしようね」。自宅の洗面所で、名古屋市的女性会社員(三)が娘(三)に声を掛ける。新型コロナウイルスの感染予防のため、昨年以降、手洗いやうがいにかける時間が長くなった。せっけんを泡立てて、手のひらと甲をゴシゴシ。さらに、爪の間の汚れを落とすため、手のひらの上で爪を立てて「シャカシャカしよう」。女性は「『ゴシゴシ』などの言葉を使うと伝わりやすい」と笑顔だ。オノマトペは、音や動物の鳴き声、物事の様子、心の動きなどを表した言葉。「『にこにこ』笑う」などと動詞を修飾することが多く、擬音語や擬態語ともいわれる。発達心理学が専門の椚山女学園大教授、石橋尚子さんによると、日本語は英語などヨーロッパ諸言語に比べてオノマトペが豊富だ。「繊細な描写を可能にしている」と説明する。

例えば「見る」。英語だと大まかに、「ぱっと見る」は「look」、「じっと見る」は「watch」と動詞を使い分けるが、日本語はオノマトペを変えれば意味の違いが出る。一つ

せっけんをつけて手を念入りに洗う時も、オノマトペは活躍



の言葉が複数の意味を持つ例も多い。「ゴロゴロ」は雷の音やおなかの痛み、大きい物が転がる様子、状態などを表現する。工夫次第で子どもへの声

掛けの言葉がぐつと豊かになるからこそ、積極的に使いたい。石橋さんは「『上手に食べましょう』と言うより、『モグモグ、ごっくんしましよ』の方が一瞬で状況が伝わり、子どもも

理解しやすい」。子どもが大人に状況や気持ちを伝えたいときに「おなかがちくちくする」など使うよう促せば、「コミュニケーションの助けにもなる」。上手にオノマトペを使うには、普段から大人が言語感覚を磨くことが大切だ。「さっさとしなさい」と言うのと、いかにも命令的だが「『ぱぱっと』や『さっさと』など別の表現に置き換えることはできないか、考えてほしい」と提案。「ママ、怒ってるよ」より「ママ、プンプンよ」の方が気持ちが伝わるだけでなく、音の響きが面白く、親も心に余裕が持てる。「子ども

家族で楽しめる「日本語オノマトペのえほん」(あすなろ書房)には、約五百九十語のオノマトペが収録されている。作者の高野紀子さんが辞典などを調べ、子どもに身近な言葉を取り上げた。例えば、学校の場面。給食の時間が始まると「わいわい」

絵本で ぶ ぶ ぶ 学ぼう

「がやがや」「ざわざわ」。わいわいは①しゃべっている様子だが、がやがやは大勢でにぎやかに話す声。ざわざわは、②きこえるさまと説明する。

消えていく言葉があれば、新しく生まれた言葉も。げたを履いて歩く音を表現する「からんころん」は、使う機会が減った言葉の一例。一方で新たに使うようになったのは、リモコンなどの「ピピッ」といった電子音だ。「子どもが自分たちの感覚で、新しいオノマトペを作っても楽しい」と高野さんは呼び掛ける。

